

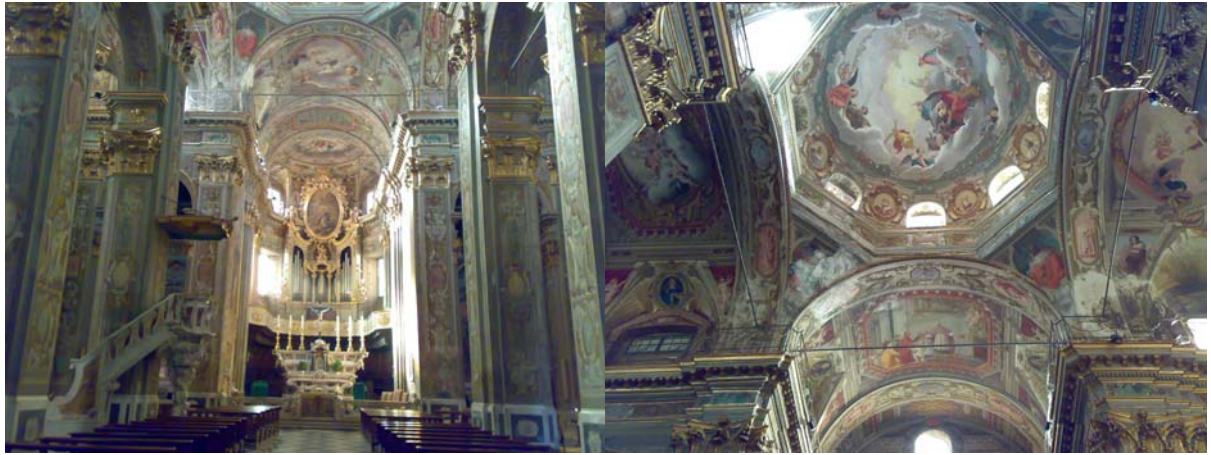
## フィナルボルゴ

ジェノヴァ近くのリグリア海沿岸はミラノに比べて気温も高く冬でも太陽が顔を出す機会多いとの情報があり、今回は早速、リグリア海沿岸に行く事としました。リグリア海沿岸は、ヨーロッパの先住民の一つと言われているリグリア人が住んでいた地域です。イタリアには、ケルト人やラテン系のローマ人の侵入から始まりいろいろの民族が入り込み、それらの民族が同化して今のイタリアがあるわけですが、先住民としてイタリアに住んでいたのは、エトルリア人とリグリア人と言われています。リグリア人はジェノヴァ一帯からフランスやスペインの地中海沿岸地帯に広がっていました。その後、これらの地域はローマの支配下に入り、西ローマ帝国の滅亡により衰退していきます。6,7世紀頃から、諸民族のイタリア侵入により、他のイタリア諸国からこの地域に避難してきた人たちが徐々に人口が増え、各地に領主が統治する時代を経て15世紀にジェノヴァ共和国に吸収され、その後、スペイン支配・フランス支配などを経てイタリア共和国の一員となります。

フィナルボルゴも、これらの他の小都市と同様な歴史を経ています。この村は、12世紀この時代の領主であった Il Guercio にさかのぼりますが、今見られる村のモニュメントは、村の周りの城壁、城壁内の教会や宮殿、城壁外のお城など、ほとんどが14世紀から17世紀の建物です。それらが、こじんまりとした地帯にまとまり、正に、観光客の為に作ったような村になっています。それも女性の観光客向きだと思います。特に日本人の若い女性観光客は歓喜すると思います。フィナルボルゴの城壁入口の正面には「最も美しい村」の看板が立てられています。この看板を見たのはこの村が初めてです。日本人の女性はこの看板を見ただけでもわくわくしてきますね。



城壁をくぐると直ぐに大きな教会があります。サン・ピアジオ聖堂です。14世紀に建てられたゴシック建築の上に17世紀になってバロック建築に改装されたものです。但し、写真の通り、外観はバロック建築とは思えないシンプルな建物です。ファサードは最後まで完成しなかったとのことで、灰色の石の面があらわになっています。でも、それが何ともいえない雰囲気をかもし出しています。やはり、田舎の教会はこうじゃなくっちゃっという感じです。鐘楼は15世紀のもので、城壁の外からこの教会を見ると、村の城壁と一帯になっているのがわかります。教会の鐘楼は、きっと、見張り塔としても使われていたのだと思います。でも、中に入ると、田舎の教会とは思えないほど豪華でした。やはり、バロック建築だったのです。柱に飾られた金色の彫刻、教会の採光塔はもちろんのこと天井や柱までがきれいなフレスコ画で覆われています。もちろん、絵画や彫刻もあります。祭壇やパイオルガンも豪華なものです。



田舎の小さな街の教会でびっくりした後は、いよいよ街歩きです。「世界ふれあい街歩き」にぴったりの街でした。小さな村でも、やはり、イタリアです。城壁の中に一つしかない広場は宮殿に囲まれてカフェのテーブルが置かれています。宮殿の壁の日時計が印象的です。この広場から 50 メートルほどの道が、村の反対側の入口に繋がっていて、その道がこの村のメインストリートです。観光客相手の土産物屋 2,3 件とレストランが並んでいますので、観光を意識しているようです。でも、洋服や果物までありますので、村の住民にとっても大切な銀座通りなのです。メインストリートからちょっと狭い路地裏に入ると、村の雰囲気をもっと味わうことができます。狭い路地のいたるところに建物と建物をつなぐアーチがあります。建物同士がお互いの強度を補強しあうためにつないでいるのだと思います。それに、窓には洗濯物が干されています。「世界ふれあい街歩き」の世界です。





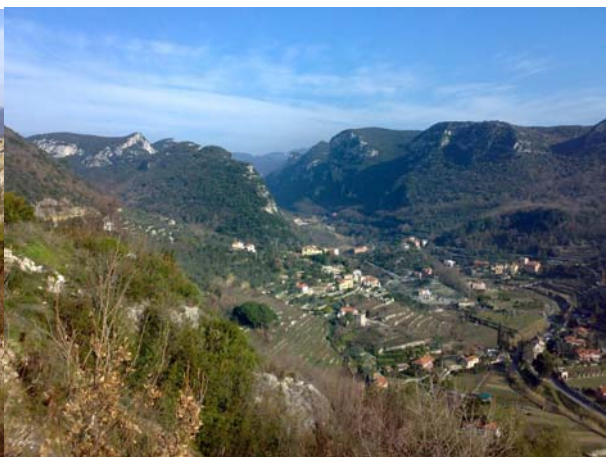
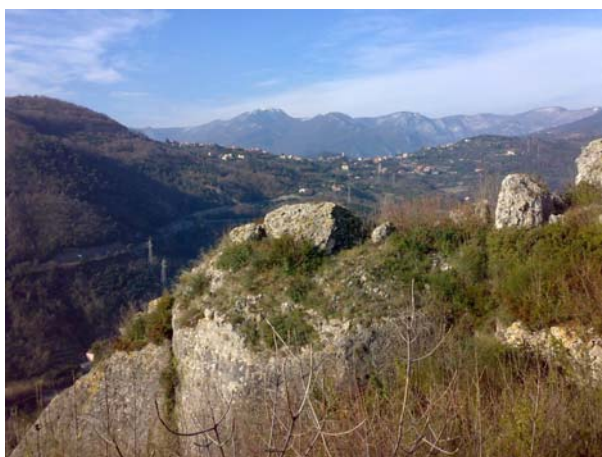
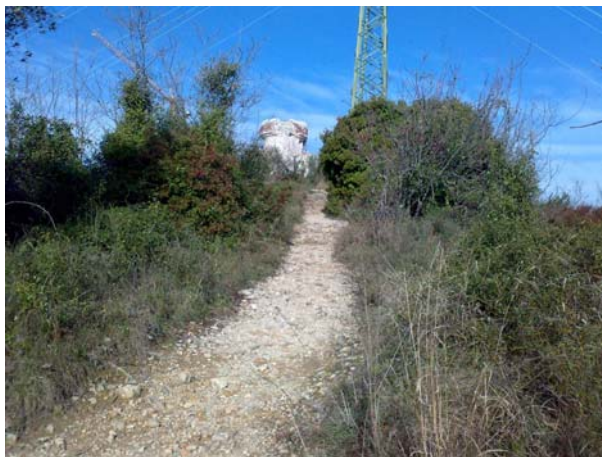
も一つの入口の外にツアーリスト・インフォメーションがあるのでそこで地図をもらおうと思い、向かいましたが、何故か閉まっています。冬だからでしょうか。でも、地図がなくても道に迷うことはありません。それほど小さな街です。この入口の外から、丘の上のお城が良く見えます。



お城の景色に誘われて、丘に登ることにしました。街中を抜けて行きます。細い道を歩いているうちにごく自然に丘への道となっていました。石畳の道をどんどん登っていくと、丘の途中に城壁の門があります。そこを抜けると直ぐにお城です。このお城は個人の持ち物のようでは中には入れません。周りには照明がついているので、夜はきれいでしょうね。



でも、道はまだ続いています。何があるのかわかりませんが少し上って、ちょっと高い岩の上に上ると、この丘の頂上にもう一つのお城が見えます。そんなことはネットのガイドには書いてありませんでした。でも、ここまで来たら上らないわけには行きません。石畳の道はだんだん狭くなり、最後には、獣道になってしまいました。それでも、頂上まで行くと、ありました。もっと古そうなお城です。でも、工事中で中には入れません。でも、いかにも崩れそうなお城なので工事中でも仕方がないですね。本当に山の頂上にあり、今にも崩れて山から落ちそうなお城です。このお城が観光スポットになるには、まだまだ時間がかかりそうです。まず、お城を補強して、それに、ここまでの道をちゃんと作らないといけません。工事中でもお城は感動的でしたが、お城を含めた周りの景色が最高です。



やはり、天気が良いと気持ちが良いですね。丘登りは、山頂のお城まで行ったこともあり、思いのほか大変でした。それに暖かくて、コートの前は開け、襟巻きははずしてしまいました。丘の下りにも素晴らしい景色が見渡せます。街と海の方角はちょうど逆光線で写真がうまく撮れていません。



フィナルボルゴは、「最も美しい村」にふさわしい田舎の街でした。ここから、バスに乗り、もう一つの「最も美しい村」であるノーリに向かいました。この街では数人のイタリア人のお世話になっています。まず、フィナーレ・リグレ・マリーナの駅からフィナルボルゴに向かって歩き出しのですが、地図もなく不安に思っていたところ、おじいさんが流暢な英語で、「どこに行くの？」と聞いてくれて、道順を教えてくださいました。でも、真直ぐだったので簡単でしたけど。フィナルボルゴでは、ノーリ行きのバス停の場所を、暇そうにベンチに座っているおばさんに聞くと、すごく親切に教えてくださいました。でも、イタリア語なので、だいたいの位置しかわかりません。ちょうど近くに停まっていたバスの運転手に聞いてやっとわかりました。その他も数人と話をしています。イタリアも田舎の人は人なつこくて親切で感じ良いですね。

今回は、ロゴレドを、朝7時12分発のIC（19.5ユーロ）に乗りました。ICなのに普通列車に比べると10分しか短縮しません。でも、席はきれいだし売り子も来ます、それに、何しろ英語の放送が各駅であるのです。なるほど、8ユーロの差はここにあるのだなと思いました。ICも普通列車と同様にロゴレドからジェノヴァ経由でフィナーレ・リグレ・マリーナ駅まで直通ですので非常に楽です。所要時間は2時間半です。ロゴレドへの戻りは普通列車（フィナーレ・リグレ・マリーナ駅の一つ手前のスポトルノから乗りました）でしたので、2時間40分で11.8ユーロでした。

フィナーレ・リグレ・マリーナ駅からファイナルボルゴまでは歩いて10分もかかりません。道順も人に聞く必要がないほど簡単です。海側の駅出口から、線路下を抜けて山側に出て、そのメインストリートを通り直ぐに進むだけです。周りには、2,3星のホテルがいっぱいあります。休みの時期にはイタリア人でいっぱいになるのでしょうね。